



# なでしこ

令和2年4月8日  
さいたま市立谷田小学校  
TEL 882-2980  
FAX 811-1334  
<http://vada-e.saitama-city.ed.jp>

【校訓】かしく なかく たくまく 【教育目標】進んで学ぶ子 たがいに助け合う子 かいっぱいやりぬく子 【在籍児童数】男子266人 女子232人 合計498人



## 令和2年度のスタートにあたって ～逆境を乗り越える～



校長 井原政幸

暖かな春の日差しに春の草花が美しく輝いて見えます。4月4日には、二十四節気の「清明（せいめい）」<すべてのものがすがすがしく明るく美しいころ>を迎えました。輝きを増す日の光、力強く芽吹く木々、彩り豊かに咲く草花、春の息吹は生活に潤いと活力を与えてくれます。

たんぽぽや 日はいつまでも 大空に 中村汀女



本校は、新1年生81名を迎え、全校児童498人、教職員51人で、令和2年度の教育活動をスタートしました。児童保護者の皆様におかれましては、御子様の御入学・御進級誠にありがとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

さて、本年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行に伴い、例年と異なるスタートとなりました。感染症が終息するまで、当分の間は、楽しみにしていた行事が延期または中止となり、通常の授業も友達と遊ぶことも思うようにできない状況です。健康や生命の危険、学習や生活への不安を抱えながら生活している児童の皆さんを思うと、とても心が痛みます。しかし、この状況を嘆き悲観するだけでは、前に進むことはできません。そこで、以下に、私から皆さんへのメッセージとともに、本年度の学校経営の決意を述べさせていただきます。

### メッセージ1 「失意泰然」(しついたいぜん)

この言葉は、中国明時代の崔後渠(さいこうきょ)が獄中で王陽明に語った六然(りくぜん)と言われる六つの教えの中の一つです。「失意のときにあっても、取り乱すことなく、落ち着いて、時節の到来を持つ」という意味です。この度の感染症に関しては、3月に話題となったイタリアのスキラーチェ校長先生の生徒に宛てた手紙が、その意味を具体的に教えてくれているように思います。この手紙は、17世紀のミラノでペストが流行した際の差別や偏見、虚言や他者への攻撃、必需品の買い占めや略奪などの混乱と現在の状況を重ね合わせて、生徒に冷静な対応を呼び掛けたものです。スキラーチェ校長先生は、手紙の中で、「私たちの高校は、私たちのリズムと慣習に則って市民の秩序を学ぶ場所です。」と、当局の休校の判断を尊重する考えを伝えました。そして、学生たちに「この手の危機に打ち勝つ際の最大のリスク(略)は、社会生活や人間関係の荒廃、市民生活における蛮行です。見えない敵に脅かされた時、人はその敵があちこちに潜んでいるかのように感じてしまい、自分と同じような人々も脅威だと、潜在的な敵だと思い込んでしまう、それこそが危険なのです。16世紀や17世紀の時と比べて、私たちには進歩した現代医学があり、それはさらなる進歩を続けており、信頼性もある。合理的な思考で私たちが持つ貴重な財産である人間性と社会とを守っていきましょう。」と語り掛けています。日本国内でも差別や偏見、虚言・誹謗・中傷・いじめ、買い占めや周囲に迷惑をかける身勝手な行動が報道されています。緊急事態宣言が発せられた今、最も大事なことは、私たち大人がスキラーチェ校長先生のように落ち着いた態度を児童に示し、安心感を与えながら理性と冷静さ、秩序をもって行動することの大切さを語り、国や市の対策に協力しながら、みんなでこの危機を乗

り越える心構えを持つことだと思います。本校では、このことをしっかりと児童に教え、心のケアや健康・安全等の教育的配慮をもって全力で教育活動を進めてまいりたいと存じます。

## メッセージ2 「3つのC」<Chance(チャンス)、Challenge(チャレンジ)、Change(チェンジ)>

この言葉は、私が教師になりたての頃に先輩から教わった言葉です。今日の危機的な状況の中で前向きに頑張っている人々のニュースを見て思い出しました。「好機はいつでもそこにある。その好機をつかんで挑戦することで、自分が変わる（成長する）、周りが変わる、将来が変わる。」という意味で、前向きな考え方や生き方を大事にしようという児童への呼び掛けの言葉です。今、世界各国で研究者の方々が薬や治療方法の開発に取り組んでくださっています。きっと、新たな薬や治療法が開発され、人類は新型コロナウイルスの感染症を克服し、新たな知見を得て更なる医療の進展を成し遂げることでしょう。それは、先人が様々な災害や困難を乗り越え、科学や技術を進展させ、社会の仕組みを築いてきたことで、今の私たちがその恩恵を享受できているのと同様に、この度の研究成果が後世に受け継がれ、近い将来には同じ苦しみから人々を救うことにつながると信じます。学校教育においても、この度の事態に懸命に向き合い対処方法を構築すること、今までの学校教育の在り方を見直すことで、より対応力のある確かな教育を進めることができるものと考えます。また、児童には、この逆境を乗り越える経験を通して、社会の在り方や世界的規模の様々な課題に目を向け、自分の生き方や人としての在り方を考えるなど、これからのよりよい社会の構築やたくましく生き抜く力に変えてほしいと願います。その意味で、Chance、Challenge、Changeの前向きで強い決意をもって、本年度の教育活動を実践してまいりたいと存じます。そのために、まず本年度のスタートにおいて、さいたま市教育委員会の方針と具体的な通知に基づき、児童の健康と安全を最優先にして、本校で成し得る最善の教育的配慮と対策を講じながら、全力で教育活動を進めてまいります。そして、前年度実施できなかった分と合わせ、本年度の教育課程の内容を全て取り上げて指導するように努めてまいります。感染症の終息後は、早期に正常な学校経営を回復させ、本年度から全面実施となる新学習指導要領に基づく教育の実践と、さいたま市教育委員会が策定した「第2期さいたま市教育振興計画」及び「未来を拓くさいたま教育推進プロジェクト」を本校の実態に即して創意工夫し、実践してまいります。特に、全ての市立学校が取り組むべき内容としての6領域（人権教育、生徒指導、教育相談、道徳教育、特別活動、進路キャリア教育）と、今日的課題として示された「令和元年度新たな重点プロジェクト」としての6領域（ICTを活用したアクティブ・ラーニングとプログラミング教育、さいたまSTEAM教育、さいたま読解力向上教育、SDGs、セーフコミュニティ、主権者教育）については、本年度学校経営グランドデザイン及び学校経営方針の重点・努力点（別紙資料を御参照ください）に位置付けて取り組んでまいります。

……今、本校に着任した年の初めての運動会のことを思い出します。入場行進を終え、開会式が始まる頃、急に強い雨が降り出しました。私は、挨拶の中で「止まない雨はありません」と公言し、児童の皆さんは運動会の成功を信じて、心ひとつに立派な態度で雨の中の開会式に臨んでくれました。その後、天気は速やかに回復し、元気いっぱい、笑顔いっぱいの素晴らしい運動会になりました。この素敵な出来事は、今もよい思い出として私の心に残っています。この度の逆境を乗り越えるには、相当な困難が伴うことと存じますが、その先には、あの時の青空と同じように、きっと新たな世界が広がると信じます。教職員一同「すべては子どもたちのために」という思いを胸に、本年度も「希望にあふれ、明るく温かな学校」づくりを推進してまいりたいと存じます。皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。



【3つのG】 Grit: やり抜く力で真の学力を育成すること Global: 国際社会で活躍できる力を育成すること Growth: 一人ひとりの成長を支え、生涯学び続ける力を育成すること